

「安心・活力・発展プラン2005」 第1回安心部会 委員発言要旨

日時:平成26年7月1日(火)13:00~15:00

場所:トキハ会館5階「カトレア」

No.	項目	発言要旨
1	子育て支援	地域には子育ての手伝いをしたいという人が沢山いる。このような人をうまく活用できるような、地域力の底上げも必要。「女性の働く場」「子どもをあずける場」「急なときの対応」の3つともえの支援が必要であり、制度で足りない部分を支えるのが「地域力」(元保育士、元看護師等)
2		勤務時間が不規則な女性は、どうしても保育園には頼れない。そのような女性と、子育てを支援してくれる高齢者をマッチングさせるとうまくいくのではないか。
3		子育て支援施策について、高齢者支援よりも少し取組が弱いのではないか。地域の子どもや家庭に対する支援をもっと充実させる必要がある。
4		周囲が家庭に問題があると認識していても、今の体制では交番や民生委員が家庭に入ることができない。かゆい所に手が届いていない。
5		子育て支援には、きめ細やかに個別支援を行う視点が重要。母親に提供するサービスの選択肢をたくさん用意すると共に、母親と事業、さらに地域をつなぐような仕組みを構築する必要がある。
6		子育てとはこういうものだ、という先入観をもたないこと。多様なニーズがある。難しいとは思いますが、支援の面でもたくさんの選択肢がほしい。
7		子育て支援、女性支援を行うに当たっては、30代~40代の独身男性が結婚・子育てについてどう思っているか調査してほしい。女性の意識と相当ギャップがあるはず。
8	高齢者対策	山間地の農林業支援、子育て支援、教育支援などの分野で、高齢者に現役世代として働いてもらうことが必要。サロンには出ていかないが、現役的な働き場には出ていく。
9		「高齢者を高齢者が支える」、「高齢者と若者が共同で高齢者を支える」という視点がこれまで乏しかったのではないか。
10		各地域の高齢者からは「することがない」という声をよく聞く。生涯現役という仕組みを政策誘導で作っていかないと、これからの高齢化社会を乗り切れない。
11		悪徳商法の横行、孤独な高齢者、受診難民や買物難民等、高齢者をとりまく環境は年々悪くなっているように感じる。
12		地域包括ケアシステムについて、市町村格差を作ってはいけないが、市町村を競争させ、最低レベルの格差を作らせて取組を促していくことも県の役割ではないか。

No.	項目	発言要旨
13	障がい者支援	障がい者雇用で、今後特に力を入れてほしいのは場所の提供、機会の提供。県庁舎や振興局を折々解放してもらって、野菜の朝市や、作ったものを販売させてほしい。また、イベントがあるときに出店させてもらったり、椅子出し等の仕事を発注してもらいたい。
14	高齢・障がい者支援	大分県は高齢者美術が盛んであり、発達障がい者の美術レベルも高い。心の癒やしとしての芸術という観点について、県立美術館において配慮いただきたい。
15	医療	精神科救急・医療についてはもう一段の取組を。特に認知症疾患対策。
16		平成27年度から地域医療ビジョン策定が開始されるが、人口が減少している地域の医療機能を一律に削減することのないようにしてほしい。
17	環境	県民アンケートでも、「暮らしやすさの重要項目」として、「海・山などの豊かな自然環境」がトップとなっている。豊後大野、姫島がジオパークに認定されたが、もっと自然環境を大切にしていきたいことが求められているのではないかな。
18		生物多様性戦略は、豊後大野市のみ作成予定で、その他の市町村は作成予定すらない。県の意気込みが市町村に伝わっていないのではないかな。
19		ごみゼロおおいた作戦はすばらしかったが、次の段階として、海洋や大気、源流対策等、もう少し広い視野で考えるプランがほしい。
20		大分県では各家庭でのCO2排出削減の取組が行われているが、こうした地道な取組を続けてほしい。
21	女性の活躍	県民アンケート調査は、働く女性の意識を正しく反映しているか疑問。働く女性にターゲットを絞った調査を改めて行うべきでは。
22	小規模集落対策	小規模集落対策、特に買い物弱者対策が重要。買い物ができないというのは集落のコミュニケーションの場がないということ。
23	地域づくり	世界農業遺産を長期的な視野で環境づくり、地域づくり等に活用してほしい。食が元気になれば、農業も地域も元気になるため、地域の食文化の発信をしていきたい。また、食育についても長期的な視野を持って取り組んで欲しい。
24		中山間地域等直接支払制度について、例えば移住してきた農業をやりたい若者に、集落の面倒も見てもらう代わりに金銭的援助を行う等、人づくりに着目した制度の活用も考えられる。
25		地域のオピニオンリーダーの育成にもっと力を入れてほしい。
No.	項目	発言要旨

26	災害対策	災害に強い県土という部分では、ハード面で解決というだけではなく、ソフト面での取組、地域のつながりやコミュニティを強くすることも大事なのではないかと。
27		災害時の交通対策について、車を使ってはいけないとよく言われるが、高齢者のいる世帯や福祉施設等ではそうはいかない。交通対策についてのガイドラインを作らないと大混乱になる。
28	雇用・就労	お互いを支え合うような職場づくりが必要。子どもの急な発熱や親の介護等が生じて、同僚に気兼ねなく休みがとれる職場環境が整備されるべき。
29		若者の低賃金が問題。賃金が安いのに子どもを2人、3人産みましょうよ、と言っても無理。労働・賃金制度をしっかりと考えないと人口は減少しつづける。
30		高齢者の就労支援が重要。退職すると自分の居場所がなくなる。雇用形態、業務内容を変えて働きやすい環境を整え、60歳、65歳を超えても継続雇用できるようにするといったのではないかと。
31		働き方の変革が必要。長時間であると厳しいけれども、短時間就業であれば働けるという人たちもたくさんいる。ワークシェアリング等の取組を進めるべき。
32		ワークシェアリングも良いが、非正規雇用が増えるのは問題。
33	教育	男女共同参画社会や性差別について、学校教育を充実させる必要があると思う。
34		いかに生きていくかや、人に奉仕することの喜びを教育することが大事ではないかと。ボランティアの増加にもつながる。